日本保健医療社会学会ニューズレター （No.129） 2024/10/23

目次

1. 第 51 回大会について
2. 理事会報告
3. 定例研究会の告知（関東）
4. 定例研究会の告知（関西）
5. 看護・ケア研究部会報告・告知
6. 渉外・国際交流活動の告知
7. 追悼　片平洌彦先生（本学会評議員）
8. 編集後記

---

1. 第 51 回大会について

第 51 回大会は、長崎大学医歯薬学総合教育研究棟（長崎大学坂本キャンパス 2）で開催いたします。開催日時は 2025 年 5 月 24 日（土）-25 日（日）です。メインテーマは、“Health and Medical Sociology in Motion: 「越境」をさぐる”としました。このメインテーマには、単に国や地域の境界を越えるという意味だけではなく、異なる学問領域の境界、当事者と研究者の境界等を越えて、ダイナミックな保健医療社会学を構築しようという意味を込めました。

本大会では、例年通り一般演題や RTD(Round Table Discussion)を行うほか、以下の企画を予定しています。

1. 大会長講演
   演者：平野　裕子（長崎大学）
   テーマ：「保健医療社会学における『越境』をさぐる」
2. 記念講演
   演者：Pham Duc Muc（ベトナム看護協会長）
   テーマ：「ベトナムにおける介護者研修プログラム実施の可能性と課題」
3. シンポジウム
   演者：小川全夫（九州大学名誉教授）、Susiana Nugraha （University of Respati Indonesia 講師）、伊藤尚子（京都府立医科大学准教授）
   テーマ：「アジアの目を通して日本の介護を問い直す」

本大会では、登壇者を除き、事前申し込みに限り Web 参加も受付けます。詳細につきましては、11 月初旬に公開予定のホームページをご確認ください。一般演題、RTD の募集期間は、2024 年 12 月 3 日から 2025 年 1 月 17 日です。ふるってご参加ください。

なお、長崎市は国際的な観光地であり、昨今のインバウンド需要に伴い宿泊予約がとりにくくなっております。大会のご参加が決まりましたら、早めの宿泊予約をお勧めいたします。現

在準備中の大会ホームページからも交通機関や宿泊の予約ができるよう、リンクを貼る予定です。

（第 51 回大会長：平野裕子 ［長崎大学生命医科学域保健学系］）

2. 理事会報告

以下の通り、2024 年度第 2 回理事会が開催されました。

日時：2024 年 8 月 21 日（水）13：00～15：00

会場：ZOOM 会議

出席者：金子会長、石川理事、田代理事、海老田理事、三井理事、松繁理事、佐藤理事、美馬理事、平野理事、井口理事、吉田大会長（第 50 回）黒田監事、事務局　平野（記　国際文献社）

欠席者： 朝倉監事

1) 第 50 回大会について

吉田第 50 回大会長より、対面と web 参加合わせて 267 名であったとの報告があった。決算については黒字となり、運営補助金を返金し、残りの黒字分は学会本体へ寄付することが伝えられた。

2) 第 51 回大会の準備状況の報告

平野第 51 回大会長より、予算案や新規の試みについて説明があった。割引会員の設定、会場費の学会本体の負担、学生による物品の販売、Payvent を使用し、演題申し込み時に参加費を払うシステムとすることなどが承認された。

3) 編集委員会報告

田代理事より、論集の進捗状況について報告があった。OA 化について、次回委員会で OA 誌の要件をクリアできるよう検討することが伝えられた。

4) 研究活動委員会報告

三井理事より、関東定例研究会は、12/15 と 3/1 に対面とオンラインのハイブリッド開催、関西定例研究会は 2 月に 51 回大会連動企画を行う予定であることが伝えられた。第 51 回大会の RTD と一般演題については、12 月に募集を開始予定との報告があった。

5) 看護・ケア研究部会報告

松繁理事より、7/27 に第 1 回目の定例会をオンラインで開催したとの報告があった。9/14 と 12/21 にもオンラインで定例会を開催する予定であることが伝えらえた。

6) 渉外・国際交流活動の報告

平野理事より、APSA2024 と ISA フォーラムが開催されることを学会 HP へ掲載したとの報告があった。

7) ニューズレター129 号の発行予定

井口理事より、ニューズレター129 号の目次案と発行予定の確認があった。

8) 入退会者の承認

石川理事より、入会者 4 名の承認依頼があり、全員承認された。退会は 2 名との報告があった。

9) その他

学会誌の完全デジタル化について議論したが、完全デジタル化するメリットが少ないことから、印刷を続けることとした。現在冊子のみである特別号をインターネット上に掲載するかどうかについては研究活動委員会で検討することとなった。

（石川理事：総務担当）

3. 定例研究会の告知（関東）

2024 年度の関東定例研究会は、下記の通り開催する予定です（以下、敬称略）。

【第 1 回】

12/15（日）13:30～16:30 大妻女子大学千代田キャンパス G 棟 G525

https://www.otsuma.ac.jp/about/basic/access/chiyodacampus/

報告者：浜田明範（東京大学）

タイトル（仮）:「感染症が駆動する科学と社会：パラ医療批判の人類学に向けて」

討論者：伊藤嘉高（新潟大学）・三枝七都子（杏林大学）

司会：松繁卓哉（追手門大学）・牛山美穂（大妻女子大学）

【第 2 回】

3/1（土）13:30～16:30 明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 3F4031

https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/campus.html

「セクシュアル・マイノリティをめぐる医療」

報告者：大島岳（明治大学）・小西優実（東京大学大学院）

討論者：新ヶ江章友（大阪公立大学）・志水洋人（名古屋大学）

司会：松繁卓哉（追手門大学）・三井さよ（法政大学）

（三井理事：研究活動担当）

4. 定例研究会の告知（関西）

日本保健医療社会学会関西定例研究会は、第 1 回は未定で検討中ですが、第 2 回は、第 51 回大会プレ企画として、看護・ケア部会公開例会との共催で、2 月半ばに、海外出身で日本での介護職に従事されている方に話題提供していただいて、ハイブリッド形式で行う予定です。

（美馬理事：研究活動担当）

5. 看護・ケア研究部会報告・告知

1）2024 年度第 1 回定例研究会報告

日時：2024 年 7 月 27 日（土）14：00～17：00

場所：オンライン（Zoom）

第 1 報告

須賀郁子さん（章佑会 やすらぎの里 北小岩）
博士論文（ホームレス支援の医療人類学的研究ーハウジングファースト東京プロジェクトに関わる医療者たちの眼差しの変化）の形成過程を振り返る
報告概要：
　ホームレス状態にある人の中には精神や知的の障害を抱えていることが明らかにされても、医療者による研究は限定的で議論されてこなかった。「見えない人」と言われる人が増える中、池袋でホームレス支援活動をする支援者たちは 7 団体が協働するプロジェクトを立ち上げた。支援困難層と呼ばれ、安定した住まいを持たない人がアパートで生活できるように、「精神科・内科クリニック」と「訪問看護ステーション」を開設し、医療者たちはハウジングファーストやオープンダイアローグの思想を取り入れた支援をはじめた。その医療者たちの語りを中心にエスノグラフィーとしてまとめたのが博士論文の内容である。
　発表後のディスカッションを経て、改めて考えたことがある。開発人類学者の指導教授からは「看護を一度捨てなさい」と言われてきたが、博士論文完成までの 6 年間は、自分自身がパラダイム転換する（看護から社会科学の視座を得る）のに必要な歳月であった。看護学に人文社会科学の知見は必要である。今回発表し議論できたことで、学んだことをどのように社会に還元していくのか真摯に向き合う勇気をいただいた。このような発表の場があることに感謝を申し上げたい。
第２報告
末武友紀子さん（日本赤十字看護大学大学院）
「看護師の被抑圧者集団　行動」の概念分析
報告概要：
　「看護師の被抑圧者集団行動」概念の先行要件、属性、帰結を明らかにし、概念の定義を開発することを目的とした研究論文を報告した。本研究は、先日開催された第 50 回日本保健医療社会学会大会で発表したものである。論文投稿予定であるため、当該概念への印象や論文全体への忌憚ない意見を求めて議論した。その結果、看護師の歴史を遡り概念を論じているため、現代ではミスマッチな部分がある、あまり使われていない概念を概念分析の手法にはめ込む限界があるという意見があった。看護界で当該概念をうまく活用するための考察を丁寧に論じることの重要性が確認され、そのためには概念分析の方法に即した現在の論文スタイルを見直すことが提案された。報告者としては、臨床の具体事象を絡めて丁寧に多方向から説明すること、看護師集団に当該概念を使うにはどうしたらよいか、どのように活用すれば看護が良い方向に向かうかという視点で述べること、中動態で考察した内容には、時間の経過や歴史の移り変わりの中で変化する当該概念のポジティブな側面も表現すること等、貴重な示唆を得た。そして、本研究への関心と、現在の看護師が置かれている状況を説明できる概念であるという心強い言葉が励みになった。

2）2024 年度第 2 回定例研究会報告
日時：2024 年 9 月 14 日（土）14：00～17：00

場所：オンライン（Zoom）
齋藤貴子さん（日本赤十字秋田看護大学）
「動いていくを支えるいつもの看護実践の現象学的記述」

3) 2024 年度第 3 回定例研究会のご案内
日時：2024 年 12 月 21 日（土）14:00～17:00
基本的に毎回２名の報告者を募集しております。
研究例会でのご報告をご希望される方は、下記のフォームからお申し込みをお願いいたします。皆様からのお申込みお待ちしております。
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSetk0YIyTOb4RiOvXYkxk8NvE7b5aGscy9aPUfLxFYi1_7WVw/viewform?usp=pp_url

（松繁理事：看護・ケア研究部会担当）

6. 渉外・国際交流活動の報告・告知

以下の関連学会が開催されます。

● Asia Pacific Sociological Association (APSA) 2024
開催日時：2024 年 10 月 26 日-27 日
場所：インドネシア共和国南スラウェシ州マカッサル
学会紹介：アジア太平洋社会学会。メンバーは、アジア太平洋地域で教育・研究を行う高等教育機関（大学、大学院、研究所）の研究者や、この地域に関する研究・教育を行う独立研究者らである。学術成果の共有、学術情報の交換、若手研究者の育成を図ることを目標とする。
2024 年大会ホームページ：
https://linktr.ee/apsa2024

● International Sociological Association (ISA) 5th ISA Forum of Sociology
開催日時：2025 年 7 月 6 日-11 日
場所：モロッコ王国ラバト
学会紹介：国際社会学会。学派や学問的接近手法、イデオロギーを超えて、全世界の社会学者のネットワーキングを行う。
2025 年 Forum of Sociology 大会ホームページ：
https://www.isa-sociology.org/en/conferences/forum/rabat-2025

（平野理事：渉外・国際担当）

7. 追悼　片平洌彦先生（本学会評議員）

小澤　温（評議員/前会長）

本学会評議員の片平洌彦先生が 2024 年 8 月 18 日に 79 歳で逝去されました。片平先生は東京大学大学院時代から薬害の原因とその被害の解明、さらに、薬害の予防と救済に関しての研究を一貫して取り組んで非常に多くの研究成果を社会に発表してきました。まさに、日本における薬害研究の第一人者といっても過言ではありません。片平先生は大学院時代に、当時、社会的に大きな問題となっていた薬害スモンの問題に取り組み、薬害スモンの被害実態の解明の研究で博士（保健学）の学位を取得しています。その後、東京医科歯科大学・難治疾患研究所の助手、助教授をへて、2001 年から 2010 年まで東洋大学社会学部教授、2010 年から 2015 年まで新潟医療福祉大学大学院特任教授、あわせて、2010 年から亡くなるまで、一般財団法人　メディックス臨床・社会薬学研究所の所長としてご活躍していました。さらに、片平先生は社会薬学会等の学会活動だけでなく、新医協副会長、日本科学者会議事務局長、九条科学者の会の発起人・事務局長など社会に向けてのさまざまな活動においても精力的にご活動されていました。

わたしが片平先生にお会いしたのは大学院に入学した 1984 年頃、研究の進め方や方法について全くわからなかった時に、当時の保健社会学教室の主任教授だった園田恭一先生から厚生省（当時）の特定疾患スモン調査研究班の保健社会学研究グループに参加して問題意識を高めたらどうかとの助言をいただき、片平先生を紹介していただいたのが最初の出会いでした。それからしばしば東京医科歯科大学の研究室に通うようになり、片平先生からは文献資料を十分収集して、それを吟味して、その上で調査研究をすること、そして統計処理の厳密さの重要性を教えてもらいました。今思うと研究の基礎は片平先生の研究室で学んだと思います。年度末になると特定疾患スモン調査研究班会議の報告会の準備のために抄録、ブルースライド（パワーポイント時代の皆さんには見当もつかない作業と思います）、英文抄録の作成に追われて、朝から晩（夜中）まで片平先生の研究室でお世話になった時期もありました。この報告会の終了後の慰労会がお茶の水界隈で行われて、その時は、研究の話に加えて片平先生の理念や社会的な活動の意味を教えていただく良い機会になりました。

わたしが大学院を修了した後は研究分野も異なり、物理的にも東京を離れた時期があり、片平先生にお会いする機会がほとんどなくなりましたが、2003 年に、私が東洋大学社会学部の教員になった時に、再び先生とご一緒させていただきました。その時には、初学者向けの教科書「かけがえのない生命　現代の保健・医療・福祉」、「やさしい統計学」（いずれも桐書房）をいただき、東洋大学での学生教育に本当に熱心に取り組まれている姿勢に心を打たれました。また、2004 年に東洋大学で本学会の第 30 回大会を開催した時に片平先生に大会長をお願いし、わたしが事務局長として取り組んだ際も改めて先生の思想、理念に深く触れる機会になったことも昨日のように思い出します。

片平先生、長い間、本当にありがとうございました。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

8. 編集後記

ニューズレターNo.129 では、第 51 回大会についての追加情報をお伝えしました。研究会

や国際学会の情報などもご参照ください。

日本保健医療社会学会ニューズレターは、No. 92 から PDF ファイルのメールマガジン形式で配信しています。また学会ホームページ (https://square.umin.ac.jp/medsocio/)でも公開しています。

（井口理事：広報担当）

発行：日本保健医療社会学会　　編集：広報担当（井口高志）
学会事務局：　東京都新宿区山吹町 358-5　アカデミーセンター
jshms-office@as.bunken.co.jp　　TEL：03-6824-9375